

ROYAL

平成19年12月期 第1四半期決算 補足説明

平成19年5月7日

ロイヤルホールディングス株式会社 (証券コード:8179)

平成19年テーマ「収益性向上の加速化」の第一歩
M&A効果により2期連続増収 / 経営の効率化も進み第1四半期は増益に転ず

【百万円】

	平成19年度 第1四半期	平成18年度 第1四半期	前年同期比	
売上高	28,271	26,364	+ 1,907	(+ 7.2%)
営業利益	965	783	+ 182	(+ 23.3%)
経常利益	1,048	863	+ 185	(+ 21.4%)
四半期純利益	477	389	+ 88	(+ 22.8%)

《参考:業績推移》

第1四半期	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
売上高	23,705	23,614	26,364	28,271
営業利益	1,034	882	783	965
経常利益	1,131	954	863	1,048
当期純利益	604	426	389	477

ロイヤルホスト改善の効果・ホテル事業の成長が全体を底上げ

【百万円】

	外部売上高	営業利益	主な差異要因
平成18年度第1四半期 合計	26,364	783	
外食事業	+ 1,630	+ 57	テンコーポレーション連結分増加、RH改善効果
食品事業	▲ 35	+ 48	比較的利益率の高い内部売上増加(+212)
機内食事業	+ 49	▲ 1	依然外部環境は厳しい
ホテル事業	+ 264	+ 64	新店増床効果(札幌駅前、東京目白、仙台)
消去又は全社	—	+ 14	—
平成19年度第1四半期 合計	28,271	965	

【外食事業概要】

	外部売上高	営業利益	
平成18年度第1四半期	21,972	474	
テンコーポレーション連結通年化	+ 2,451	+ 13	のれん償却後営業利益
ロイヤルホスト事業	▲ 707	+ 199	内訳は次頁『ロイヤルホストの施策』参照※
その他外食事業	▲ 114	▲ 26	一部事業で減収・減益
間接経費	—	▲ 129	新システム稼働費用等発生 など
平成19年度第1四半期	23,602	531	

期初
計画

店舗運営の改善による収益性向上に挑戦：営業利益+9億円
人件費△5億円／購買費用△2億円／消耗品費等△2億円（△：削減／+：価値向上）

第1四半期＝利益構造の再構築

第2四半期以降

地域分社

- 地域四分社化
(東日本・関東・関西・西日本)
- 各分社の経営力や機能、
自主自立の度合いを高める

《日常の店舗運営改善実施》

- 各分社独自の試みと成果の共有化
- ◆ 店舗オペレーション効率化(△人件費)
- ◆ テーブルマット廃止等の経費の見直し
(△消耗品費等)

⇒ 増益に貢献

ロイヤル株式会社

- 効果的・効率的な分社支援に注力
- 分社支援の効果を高める為の
組織の変更・人員再配置実施済み

《CS・収益性向上に寄与する
メニュー改定に着手》

- ◆ サービススピード改善(△人件費)
- ◆ クルー定着率向上(△人件費)
- ◆ メニューバリューアップ(+購買費用)
- ◆ 食品事業から内部調達増(△購買費用)
店舗作業軽減への貢献(△人件費)

4
/
17
改定

収益性向上

《ロイヤルホスト第1四半期収益改善進捗》 前年同期比営業利益率：+1.8% (2.5%⇒4.3%)

購買費用削減	△0.1億円	本格的な効果は第2四半期以降に発現を目指す
人件費削減	△1.4億円	地域分社の活動で第1四半期に効果が発現
消耗品費等削減	△1.0億円	同上（売上減少に伴う減少分を含む）

計△2.5億円 その他+0.5億円 ⇒ ※前頁ロイヤルホスト事業増益+1.99億円

<ホテル事業>

新店効果及び稼働率向上による
増収・増益の継続

新店効果:

外部売上+195百万円、営業利益+9百万円

稼働率(前年同期比): 80.5%⇒81.8%



新ブランド“リッチモンドホテル”の展開

新規出店予定 ◇ 福岡天神 → 250室(4月12日)

◇ 長崎思案橋 → 209室(6月27日)

◇ 福島駅前 → 204室(10月)

◇ 高 知 → 234室(10月)

参考値: 客室数推移(室)

H18/3 H18/12 H19/3 H19/6予定

2,807 3,109 3,109 3,568

<機内食事業>

厳しい環境下ではあるが、生産効率の改善の継続、搭載数増加により、前年同期並みの利益水準を確保



オペレーション品質の高さに基づく競争力を維持

→ 今年度も外資系エアライン複数社から表彰

参考値: 搭載実績

(ロイヤル(株)エアーケイタリング事業部、(株)関西インフライトケイタリング)

	H18/3	H19/3	前年同期比	H18通年
搭載便数(便)	11,722	12,252	+530	49,700
搭載食数(千食)	727	751	+24	3,028

<食品事業>

外部売上高は若干減少(▲35百万円)したが、内部売上増加(+212百万円)により収益力は改善



ロイヤルホスト改革の一環でセントラルキッチン機能活用促進

→ 4月17日メニュー改定に当たり

- 魅力あるメニュー創り
- 店舗での利便性向上
- 店舗での作業効率改善

に寄与する食材供給